

< 英語活動 >

**表現力を高める英語活動の工夫**  
～ 社会科の単元内容を取り入れたスキット活動を通して～  
志真志小学校教諭 平良 ゆかり

目 次

テーマ設定の理由	2 1
研究目標	2 1
研究仮説	2 1
研究の全体構想図	2 2
研究内容	
1 表現力を高める英語活動について	2 3
2 社会科教材の活用について	2 3
3 スキット活動について	2 6
検証授業	
1 単元名	2 8
2 教材名	2 8
3 単元目標	2 8
4 単元について	2 8
5 評価規準	2 9
6 指導計画と評価・言語材料	3 0
7 本時の展開	3 2
8 検証授業研究会	3 4
仮説の検証	
1 具体仮説 の検証	3 6
2 具体仮説 の検証	3 8
研究の成果と課題	
1 研究の成果	3 9
2 今後の課題	3 9
3 おわりに	4 0
主な参考文献	

英語活動

**表現力を高める英語活動の工夫**  
～ 社会科の単元内容を取り入れたスキット活動を通して～  
志真志小学校教諭 平良 ゆかり

**テーマ設定の理由**

社会の急激な進展,環境問題等,地球規模の課題が起こっている。それらの解決のために,国や個々の人々の相互理解や協力が必要である。人間相互のコミュニケーション能力の育成が,一層不可欠になってきている。

さて,こうした児童・生徒を取り巻く環境の中,国はPISA調査などから児童・生徒が,基礎的理解はもとより,お互いの理解を深め,伝える力等言語能力の育成を強く指摘している。それを受け沖縄県でも,「夢・にぬふぁ星プラン」の中で,人と関わる体験活動の充実を強調し,地域人材の活用を図ること,異文化体験などを通じた国際理解教育の充実を図り,言葉による伝え合う力,表現する力の育成をめざしている。

宜野湾市においても,1000人近くの外国人が居住する国際色豊かな地域でもあることから,英語教育特別区域として,平成16年度より,英語教育が教科として小学校に導入されている。平成19年9月に本校児童640人にアンケートを実施したところ,「英語の学習は楽しい」と答えた児童が93.9%,「授業中の英語が分かっている」と答えた児童が90.9%等と回答している。

しかし,日頃の学習活動においても,自分の意見を言うことが苦手な児童もいたり,相手の伝えようとする意図がくみ取れなかったりする児童もいる。また,学習へのニーズとして「生活で使える英語表現をさらに勉強したい」という意見もある。

そこで,4年生の社会科の単元で学習した内容をスキット活動で伝え合うことで,発表の仕方の工夫等,人に伝える表現力の育成を図りたい。さらにスキット活動を行う際に,グループで協力して活動させることで,個人及びグループでの達成感を味わわせ,相互理解を深めることの意義を体感させ,今後の英語活動に意欲的に取り組むことができるであろうと考え,本テーマを設定した。

**研究目標**

社会科の学習内容を取り入れたスキット活動を通して,表現力を高める英語活動の工夫をする。

**研究仮説**

**1 基本仮説**

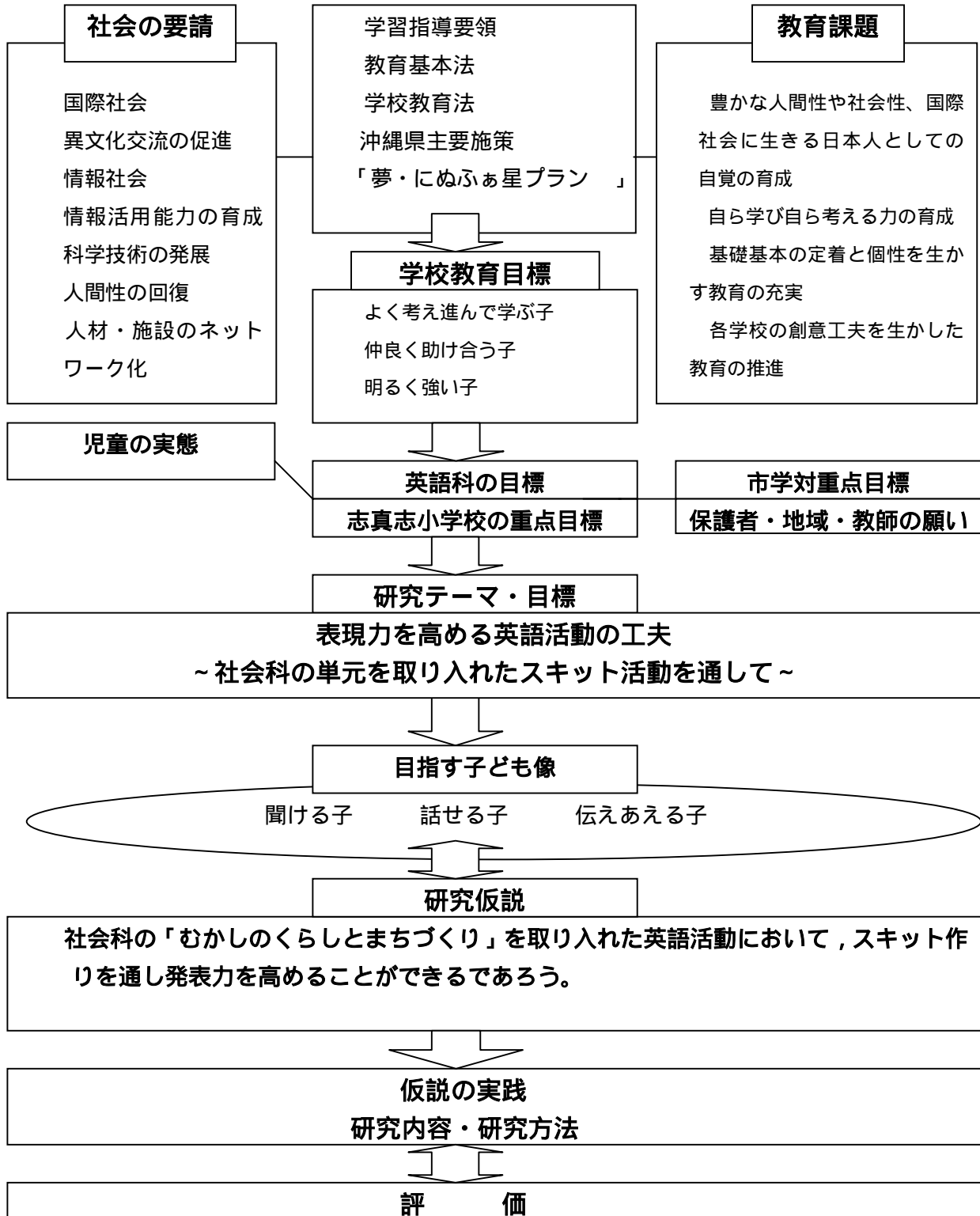
社会科の「むかしのくらしとまちづくり」を取り入れた英語活動において,スキット作りを通し発表力を高めることができるであろう。

**(1) 具体仮説**

社会科単元である「むかしのくらしとまちづくり」からテーマを選び,調べたことの中から英語でのスキット作りを通し,グループで発表しながら表現力を高めることができるであろう。

沖縄の身近な食材の作り方の手順，踊り等を見せたりするスキット活動を通して，身近にある教材を活用しお互いに英語表現活動をするにより，発表への関心が高まるであろう。

**研究の全体構想図**



## 研究内容

### 1 表現力を高める英語活動について

#### (1) 表現力とは

表現とは、国語辞典「大辞林」によると、「内面的・精神的・主体的な思想や感情などを、外面的・客観的な形あるものとして表すこと。また、その現れた形である表情・身振り・記号・言語など」と説明されている。また、この表現の中心である言葉を通したコミュニケーションについては、「社会生活を営む人間が互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと」と記されている。

このコミュニケーションの能力を高めることが『『英語を使える日本人』の育成のための戦略構想』の中でも強調され、新学習指導要領を推進する上で強く要請されている。

さて、コミュニケーションを含む表現力について萬屋（2007）は「小学校英語教育の進め方」において、「それぞれの国に文化があり、その文化には優劣はない。それを表現しながら理解する。教えたり、教え伝えたり、それを受け止めたりしながら、自己実現を図る。こうしたことに表現は活用される。」と述べている。

さて、グローバル化した社会の中で多くの異文化・異民族の人々と関わる時、国際的な共通語として英語がさかんに活用されている。この状況から、英語で表現力を高めることについて考えてみたい。

#### (2) 表現力を高める意義

核家族化・地域のつながり、地域教育の変容から、子どもたちは朝起きて寝るまでに親子間や学校生活、地域生活で十分な会話がもてているとは言いがたい。小学校高学年で23時以降に就寝する児童が29%、24時以降に就寝する中学生が47%（ベネッセ教育研究開発調査、平成17年度）となっており、結果、会話をしながら朝食が取れている児童・生徒も減っている（義務教育に関する意識調査 H17年度）。直接他と関わる機会が減ることで、会話のチャンス・自己表現の機会も自然と減っていく。

ところで国際社会が進む現代、子どもたちは生活する中で、多くの異文化・異民族の人々と関わる機会が増えてくる。例えば、食生活から考えても日本は食料自給率が低く、他国の支援なしには生活できない現状にある。そう考えると、様々な価値観の人と表現し、交渉し理解し合うことが必要となるわけである。

一足飛びにこうした表現力をつけることは難しい。そこで英語学習の時間に、級友はもちろん、外国人講師と表現し合い、それを交流会や日ごろの生活で活用する。または学校行事等で活用する。こうして、他と関わる機会を多くもつことで、自己理解・他者理解を深める。

表現力を高めることは、こうした他とうまく関わるためにも、意義がある。

### 2 社会科教材の活用について

#### (1) 社会科教材を活用する意義

小学校教育では、児童の発達はまだまだ未分化なため、他の教科内容を取り入れた、合科的、

横断的カリキュラムが盛んに行われている。

そこで、本研究で社会科の内容を活用するが、合科・横断的に学習をすすめる意義として、次のような観点から検証することとする。

学習指導要領に則ったカリキュラム編成になっている社会科の学習を取り入れることは、学年なりの発達段階に合った英語カリキュラムを組むことができる。

一度学習した履修内容なので、安心して英語学習にも取り組み、場の設定（動機付け等）もしやすい。

他の教科の内容を英語で再度学習するので、フィードバックできる。

まず、の事項に関して、小学校学習指導要領には、教育課程編成上の注意を次のように明記している。

『「教育課程は、児童の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分考慮すること」、その際に「地域の教育資源や学習環境の実態を考慮し、教育活動を計画すること。」』と配慮事項としてあげている。

子どもたちが学習する上で、実際に目で見て、調査・観察できる地域素材は、IT化が進んだ現代社会でも重要である。実体験を通し、理解することは、学年の発達段階から考えても無理なく学習が進められる。その学習内容を英語学習に転用することも、児童の発達段階からして、負担を少なく進めることができるというわけである。

ここで『小学校4年生社会科指導書』の内容から、英語学習とクロスカリキュラムが組める内容の例をまとめてみると次のようになる。

四年・社会科	地域紹介	・安全なくらしとまちづくりについて、地域のさまざまな仕組みについて調べ、まとめる。
	歴史紹介	・人々（市町村、県）の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働き等に関心をもつ。公共施設等へ理解と関心をもつ。
	地形・環境紹介	・県内の特長的な産業・地形について地図や市・県の資料を使い、調べ、まとめ、発表する。

図1 英語学習と合科的に取り組める社会科単元の内容

また、の事項に関して、英語活動に教科横断的な活動内容を盛り込むことで、他教科の知識をもとに、失敗への抵抗が高くなる高学年の児童でも、安心して英語学習に取り組むことができる。

また、どの学習内容を取り入れたか、わくわくしながら活動に参加することができる。社会科の都道府県名などの教科の知識を取り入れた英語のクイズなどは、その事例の一つである。英語学習への動機付けも容易にできる。

このほか、社会科の教科の内容を再度学習することができ、子どもたちにも意義深い。他の教科で学習したことを使うことで、その内容をもう一度ふり返ることができる。また他の団体・外国人等に伝えるということで、さらに詳しく調べ、分かりやすく伝えようとする。

そのためさらに理解を深めることができる。

「生きる力」を大きなテーマとして、次期新学習指導要領で「思考力・判断力・表現力を育むための観察・実験等の充実」に合わせ、「伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」などがあげられている。

社会科には、その伝統や我が国と郷土について学習する単元・内容がふんだんに盛り込まれている。見学・観察・インタビューと資料収集が容易であり、また情報収集するうちに地域に視点を向けることにもなり、地域理解・自己理解にもつながる。

## (2) 社会科教材について

小学校学習指導要領中学年の学習内容では、「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人ののはたらきについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」という観点から、地域の施設・設備等から教材を選び、見学や調べ学習・まとめ・発表をさせたい。調べ、まとめたことを、表現する一方法として、外国人や他域の人々に伝える経験は、これらから世界を意識し、活動を広げていく子どもたちに意義ある活動である。

「むかしのくらしとまちづくり」は、地域に残る古い道具や、文化財・年中行事などを通し、昔の生活について調べ、人々の生活の変化や願いについて考えたり、生活を開発・改善するための先人の苦勞について知り、考え、それらの人々の功績について尊重する気持ちを育むことのできる学習である。現在の生活を支える人々の苦勞を知り、地域文化等に誇りをもち、それを伝えられる人材の育成は、協調しながら「地球市民」として世界を担う人材を育成するという観点からも欠かせない学習内容である。

本英語活動で活用する内容・実践までの流れは、以下のようである。

社会見学にて琉球村・読谷村資料館を見学

地域の発展に尽力した人材について

・ 儀間真常の功績について調べ学習する

宜野湾市資料館見学

・ 地域に残る古くからの民具・道具について見学・検索

ミニ新聞にまとめる

## (3) 社会科教材を取り入れた英語活動

本研究では、社会見学において見学した琉球村や読谷村資料館、市資料館等から子どもたちが「知っている」・「外国人に伝えたい」・「持って行きたいお土産」をアンケートした。それによって、おおまかに沖縄に伝わる身近な文化について、社会科の時間を使い紹介した。さらに、これからの学習内容について大まかに知らせ、テーマ選定のヒントとした。

以下、学習の流れは次のようである。

宜野湾市の伝統産業である「田いも作り」を、3年生で学習している。「田いも」の天ぷらの作り方を、英語で学習する。

その基本文をもとに、グループできめたテーマについて英語で説明する文を調べる。

(聞き取り, 音声辞書, PC 絵カード)

まとめ方を話し合う(新聞・ダンス・歌・紙芝居など)

発表のシナリオを作り, 発表練習する。

沖縄の CM 発表をする。

#### (4) 身近な英語表現リスト

言語材料の選び方は, 小学校段階では, 「英語を使ってコミュニケーションを体験する」ことを重視する観点から, それを適宜配列する必要がある。今回の学習では, 様々なテーマに対する言語事項を見聞きし, それを今後の学習でも生かせるように配列する。

身近な言語材料: 「むかしのくらしとまちづくり」の学習において

ア) 1 次目(基本文学習場面で)

あいさつ, 説明の手順(First, Second, Third, Fourth, Fifth, Sixth, Finally,)

料理の動作(wash, peel, cut, deep-fry, put, take, mix)

イ) 2 次目・3 次目(ジェスチャー学習場面で)

目: make/avoid eye contact 手・指: crack your knuckles, play your hair

腕: cross your arms, wave your arms, 肩: shrug your shoulders,

足: tap your foot, Attentive,

ウ) グループ活動場面で(食事、踊り等の手順)

サターアングギー: はかる(Measure)・まぜる(Mix)・まるめる(Round)・あげる(Deep-fry)

おどり: 手をこしにおく(Put)・右へまわる(Turn to right handed)・しゃがむ(Squat)・

手を右へ動かす(Slide to right)

歌: リズムに合わせる・聞く(Listen)・合わせる(match)・人気の歌(Popular song)

シーサー: 丸める(Round the clay)・広げる(Spread)・くっつける(stick)・穴をあける(Make a hole)・うずまきのようにまく(Coil)・守り神(Genius)

チャンプルー: あらう(Wash)・切る(Cut)・いためる(Stir-fry)・あじつける(Season)・足す(Add)・のせる(Put on)・もりつける(Dish)・スタミナ食(Protective food)

課題への取り組みで必要な英語表現は, 児童の必要に応じて指導・助言を図るようにしたい。

### 3 スキット活動について

#### (1) スキットとは

スキットとは『英英辞典』(Oxford of dictionary)によると, 「a short comedy. sketch or piece of humorous writing, especially a parody.」と記されている。

米山(2003)らによると, 「目標とする文型などを利用しながら, 簡単な寸劇を作り, それを発表する活動をする。どんな文型事項等にも利用可能で, 自由に創作できることから, 子どもたちは, 楽しんでスキット活動ができる。しかし, 作る・練習する・まとめる・発表するなどそれぞれの活動段階で時間がかかる。」と説明している。そこで, 活動の時間を十分とり, 活動内容をはっきりさせながら支援したい。活動を進める上で, 児童はまだ英語辞書での検

索ができないので、それに代わる資料提供には十分配慮したい。

本研究では、沖縄の文化を紹介する基本文を提示し、その文を使いながら、グループごとにテーマを決め、取り組んでいる。内容については、言葉の検索やまとめ方等、資料提供を十分行いたい。

例 I will show you Okinawan culture. This is ( ). it's a ( ).  
First, wash some Taro. Second, peel the Taro. Third, cut the Taro.  
Fourth, deep fry the Taro.

## (2) スキットを活用する意義

スキットはどんな文型事項等にも応用可能である。生徒は、楽しんで活動ができる。身近な題材からテーマを選定し活動できるので、学習への意欲が維持しやすい。さまざまなバリエーションで、検索・まとめ・発表ができ、お互いのよさを認め合えるチャンスともなる。さらに、身近な題材からテーマ選定ができることで、日常生活と学習の連続性が保て、学習内容の定着を図りやすい活動内容である。

今回、児童の興味・関心によりテーマを決め、グループ編成を行った。事前に文化を紹介する基本文を提示し、その文を使いながら、児童の興味・関心によって、テーマ選定をする。課題を選べることで、最後まで学習に意欲的に取り組むことが期待できる。4年生の学習を取り入れることで、検索活動や、インタビュー・まとめ・発表の仕方についても、身近なところから資料を探ることができる。

また、子どもたちにとり、創作活動は大好きな時間である。その活動への意欲を使い、友だちと教え伝え合いながら活動できるこの活動は意義がある。

## (3) スキットを取り入れる上での手立て

今回、「Gesture Time」「Taro-Song」を取り入れ、基本文の定着を図り、その基本文を活用しながら、グループごとの課題について調べ・まとめ・発表する活動へ展開を図った。活用する言語の検索には、自作の絵カード・PC絵カードを活用する。また電子辞書で調べたり、教師に尋ねたりするなど、適宜さまざまな検索方法が利用できるようにした。

Gesture Time(ジェスチャー タイム)

日頃話す時、相手の話を聞く際にやっているしぐさ・目線・立ちかた等のジェスチャーを、担任(HTR)・日本人英語講師(JTE)で演じ、直したい点を子どもたちに上げさせ、実際の活動に生かせるようにする。

「Taro Song」

基本文をスキット化し、歌にして繰り返し歌い踊り、自然と身につくようにさせ、本番の発表に生かせるようにする。

絵カード検索ページ(Power Point を活用した、検索ページを作成)

音声辞書も含め、絵カードを Power Point に取り込み、発音の音声を入れ、検索活動に利用できるようにした。



## 小学校英語科学習指導案

日 時： 平成 19 年 12 月 21 日（金）2 校時

学 級： 志真志小学校 4 年 2 組

男子 16 名 女子 19 名 計 35 名

場 所 Friendly room 2 (A 棟 4F)

授業者 平 良 ゆかり

指導講師 上江洲 隆

1 単元名 「沖縄を伝えよう」

2 教材名 「沖縄の CM を作ろう！」

### 3 単元目標

身近な文化について学習したことを，伝え合うことにより人と関わることで，表現への意欲を高めることができる。

身近な文化を英語で伝え，教えあう活動を通して，日常的な英語表現力を高め，発表力を高めることができるであろう。

### 4 単元について

#### (1) 教材観

「沖縄の食材・踊り・伝統工芸品」は，4 年生社会科の単元「むかしのくらしとまちづくり」の中で，とりあげられる学習の一つである。児童は英語の学習前に，社会見学で「琉球村」を見学し，事前に沖縄の生活でよく見かけられる食材・踊り・伝統的な工芸品・産業の歴史を調べている。

この学習をもとに，観光で訪れる人々や外国人，交流会等で，地元の食材等について説明する機会において，積極的に活動できるものと考え，教材として取り上げ，活動を計画した。学習への事前調べでも，資料収集においても，父母・地域と密接にかかわれる，コミュニケーションツールとしてもいい素材でもある。よく聞き伝える経験が，今後の人との関わりや，国際的視野を育てる観点からも意義ある教材と考えられる。

#### (2) 児童観

児童は，これまでの英語学習や交流学习から，「英語学習が楽しい」，「積極的に外国の人々と関わりたい，友達を作りたい」と考えている。事前のアンケートからもその様子がうかがえる。また，これまでの学習から，「生活で使える英語が学習したい」と，あいさつ等の学習より一歩踏み込んだ，より日常的な会話を学習することに意欲が高まっている。積極的に表現する，コミュニケーションを図る活動の元として，自文化を知り，それを伝える経験をもたせたい。反面，「みんなの前で発表することが好きですか」という問いに対し，「はい」と答えている児童は，約半数（45.7%）にとどまっている。友達と協力しながら，スキット活動を通し，

表現することへの意欲を高めたい。

この経験は、自己理解へもつながり、相手を受け入れる相互理解へもつながるものとする。コミュニケーションがうまくいかず、友だち作りができない子どもたちも、表現する楽しさ・人と関わる楽しさを体感し、これからの活動に生かすことができるものと考えられる。

### (3) 指導観

教材の指導においては、事前の見学・学習をふまえ、児童の興味・関心を調査し、それによってグルーピングすることで、より積極的に活動が図れるようにしたい。また、現状として、児童は、必要な言語事項を調べたりする英語辞書での検索力をもっていない。英語でどう言うのか尋ねる方法や、音声による資料検索法を提示し、多彩な言語に対応できるよう工夫したい。また、グループごとに使用する言語事項が違うことで、しっかり伝えよう、しっかり聞こうとする、表現・コミュニケーションの基本姿勢をはぐくむいい機会としたい。

## 5 評価規準

### (1) 宜野湾市英語科評価規準・中学年

表2

中学年	聞くこと	話すこと
関心・意欲・態度	話された英語に関心を持って聞こうとする	誰とでも臆せずに話そうとする 話し相手の目を見て話そうとする
理解の能力	話された英語を正しく聞くことができる	聞き取った英語を復唱することができる 簡単な質問に答えたりできる
表現の能力	話された英語を正しく聞き、動作化しようとする	簡単な質問をしたり、答えたりできる
言語・文化への知識・理解	英語独特の音声に慣れ、親しむことができる 外国のジェスチャーやサインの違いを知る	
コミュニケーション	積極的に授業に参加し、他の児童とも意欲的に関わろうとする 個々の児童と積極的に関わろうとする	

### (2) 本時の判断基準（宜野湾市の規準・中学年を参照） 表3

学習活動	評価規準 (評価の観点)		評価基準			評価資料
			A	B	C (支援)	
沖縄の文化について	関	グループの発表に進んで取り組もうとする	・自分の役割を友達と声かけをしながら、発表しようとしている(3回)	・グループの役割発表で、友達の声かけに応答している	・友だちの声かけに答えられない(安心して取り組めるよう声かけする)	行動観察
	理	基本の文を復唱することができる	・本時の目標文を復唱し、発表に生かすことができる(発表で活用)	・目標文を復唱している	・一緒に言ったり、説明を加える	

	表	グループの発表に動作などを入れ、取り組むことができる	・グループの発表に動作や台詞を入れ、積極的に発表することができる	・グループの役割発表を果たすことができる	・グループの発表に参加できない（側で、一緒に発表できるよう支援する）	
聞く	関	歌や基本文をしっかりと聴くことができる	・基本文をしっかりと聞き、友達の発表をメモを取りながら、聞くことができる	・友だちの発表を聞いている	・集中して聴けない（側で、注意を促し、支援する）	行動観察発表

## 6 指導計画と評価・言語材料

### (1) 指導計画と評価

時間	学 習 目 標	学 習 活 動	評価規準				評価資料
			関	表	理	知	
0	事前学習 社会見学 沖縄の文化をふり返ろう（社会科） 	身近にある沖縄の食・産業・伝統的な踊り等について知らせる。 					・行動観察 ・PC資料 視聴
11月9日	英語活動 ・沖縄の食材・踊り・工芸品について知る（社会科で内容は学習済み）	・伝えたいテーマの英語での大まかな言い方を知る。 ・伝え方の手順を知る(基本文)					・行動観察 ・ふり返りカード
16日	英語活動 ・沖縄の食材・踊り・工芸品について知る	・テーマごとに、どんな手順で活動が進められるか大まかに知る。					・行動観察 ・ふり返りカード
21日	英語活動 ・沖縄の食材・踊り・工芸品についてそれぞれのテーマで、説明の動きを調べる 	・テーマごとに、説明の手順を調べたり、検索する。 ・グループで教えあい、ワークにまとめる。					・行動観察 ふり返りカード ：評価表
28日	英語活動 ・沖縄の食材・踊り・工芸品についてそれぞれのテーマで、説明の動きを調べる	・テーマごとに、説明の手順を調べたり、検索する。 ・グループで教えあい、ワークにまとめる。 ・いろいろなまとめ方（発表の仕方）を知る。					・行動観察 ふり返りカード
12月7日	英語活動 ・沖縄の食材・踊り・工芸品についてそれぞれのテーマで、説明の動きを調べる	・テーマごとに、説明の手順を調べたり、検索する。 ・グループで教えあい、ワークにまとめる。 ・いろいろなまとめ方（発表の仕方を知る）を相談する。					・行動観察 ふり返りカード

12日	英語活動 ・沖縄の食材・踊り・工芸品についてそれぞれのテーマで、説明の動きをまとめる	・グループごとに、テーマについてまとめる ・まとめ方をグループで相談しながら、学習を進める。				ふり返り ・カード
14日	英語活動 ・沖縄の食材・踊り・工芸品についてそれぞれのテーマで、説明の動きをまとめる	・グループごとに、テーマについてまとめる ・役割分担し、発表内容をまとめる。				ふり返り カード
19日	英語活動 ・沖縄の食材・踊り・工芸品についてそれぞれのテーマで、説明の動きをまとめる	・グループごとに、テーマについてまとめる ・役割分担し、発表の練習をする ・発表で直したい点をあげ、グループで相談したり、アドバイスしたりする。				ふり返り カード ・行動観察
21日	単元のまとめ(1) ・沖縄の文化について、CMする。	・グループごとに、テーマについて発表する。 ・他のグループの発表を聞き、活動をふり返る。				・行動観察 ふり返り ・カード 本時評価表
ふり返り	学習をふり返る ・アンケートにより、学習をふり返る	・グループごとの発表をふり返る ・他のグループの発表を聞き、よかったことをワークにまとめる。				・行動観察 ・自己評価

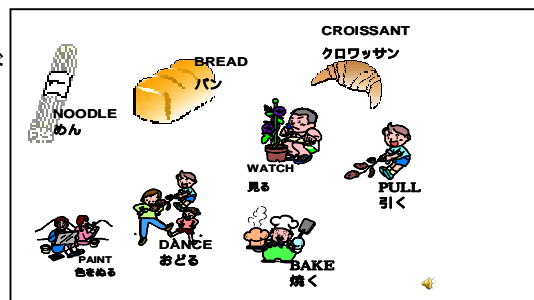
(2) 準備

発表会(本番): VTR-Camera(3台), PC 絵カード

(3) 言語材料

What is this? / It is a . It is Okinawan  
/ I will show you how to make it.

First, Second, Third, Fourth, Finally, /  
I want to try it.



(4) 掲示資料

図1 PC 絵カード

**スキットへの手立て**

<p><b>Sit up</b> <b>Straight</b> (いい姿勢で)</p>	<p><b>Say heartily</b> (気持ちをこめて)</p>
<p><b>Don't Play with Your Hair</b> (かみで遊ばない)</p>	<p><b>学習の流れ</b> 説明 検索 まとめの仕方 練習</p>

図2 Gesture Time・学習の流れ記録(教室廊下側)

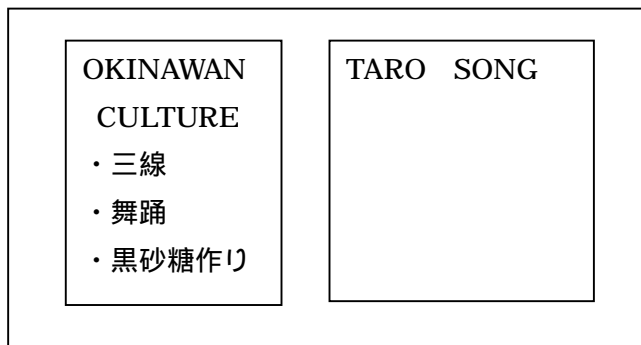


図3 学習の基礎要素（教室ベランダ側）

- 1 Listen Carefully
- 2 Good Job
- 3 Mistake is OK
- 4 Make eye contact
- 5 Don't be shy
- 6 Speak louder

図4 教室前面（英語学習の注意）

## 7 本時の展開

### (1) 本時のねらい

グループごとに、テーマについて発表したり、他のグループの活動を見ることから表現への関心を高めることができる。

英語でのスキット発表を通し、身近で使える英語表現への関心を高め、発表力を高めることができる。

### (2) 授業仮説

それぞれのテーマについて、まとめたことをグループごとに英語で発表する活動を通して、身近で使える英語表現の力が高まり、表現することへの意欲が高まるであろう。

### (3) 展開 Ss : Students

	児童の活動	教師の活動		留意点	評価規準 〔観点〕 < 評価資料 >
		HRT(担任)	JTE (日本人英語教師)		
1. Warm-up 導入	挨拶する Let's start our English class. Weather, Day, Date, ルールを確かめる Check 6's rules.  歌を歌う Sing TARO SONG. TARO SONGで、作る順番を確かめる 3回練習する。	Greetings with S.  Check 6's rules. Do gesture.  Sing TARO Song.  TARO SONGで、口慣らしをしよう。 (早口言葉のように練習しよう。) Gesture Time. Think, is it good?	Help Ss activities.   Sing TARO Song with S. Help Ss practice.	学習にしっかり取り組めるように、学習のルールをみんなで確認させる	本時評価表  ふり返りカード  ふり返りカード  ふり返りカード
2. Review ふり返り	前時までをふり返る Review about Gesture Time. ・発表する時の姿勢等を確認する。				ふり返りカード

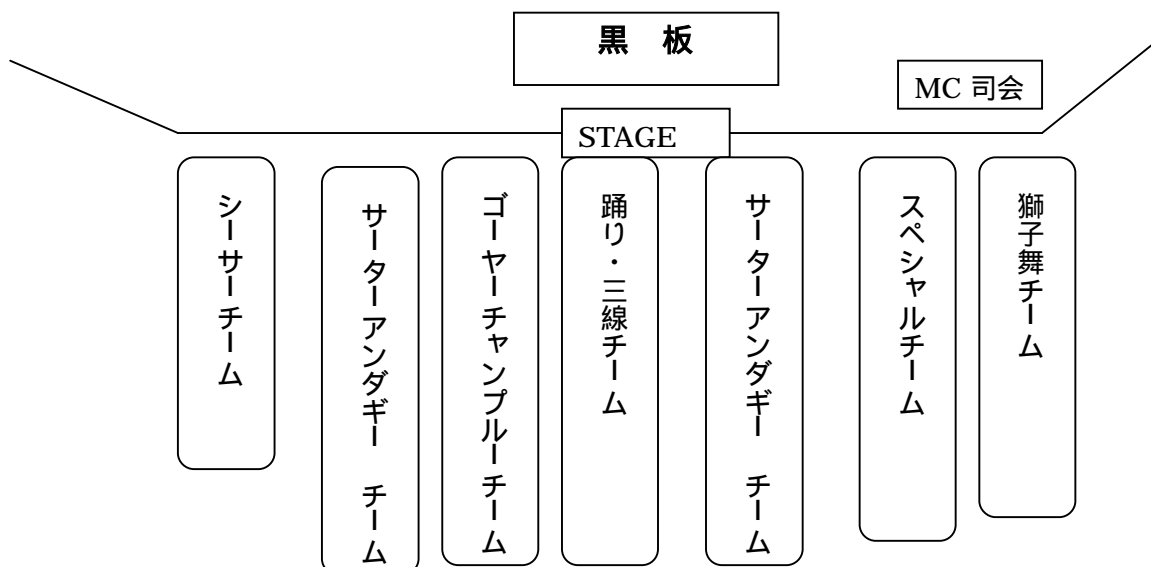
3. Activities 展開	学習内容をたしかめる Let's say today's goal.	今日の目標文を提示し、一緒に練習する。 Let's say today's goal. Confirm today's goal with S. Help Ss activities.	Say with Ss. Confirm today's goal with Ss.	本時の学習内容をみんなで確かめさせる	ふり返りカード
	We will show you Okinawan culture! Let's enjoy together. みんなで沖縄の文化を紹介します。 一緒に楽しみましょう	発表の仕方を確かめながら、発表しよう。		発表したり、友達の活動をしっかり聞くことができるように、メモを取らせながら、活動を進めさせる。	ふり返りカード
	グループごとに沖縄の文化を紹介する MC: 交代で会を進める。				
	学習をふり返る 友だちの良かったところ、グループの良かったところを発表する。 Let's try Okinawan quiz. 沖縄クイズにチャレンジしよう。 グループで相談し答える。	メモをとりながら、聞こう。  グループで相談しながら、こたえよう。	Help Ss activities.  Help Ss answer.		
4. Wrap up まとめ	学習をふり返る グループの活動をふり返り、次の活動へつなげる。	グループの活動をふり返ってメモしよう。			

#### (4) 評価

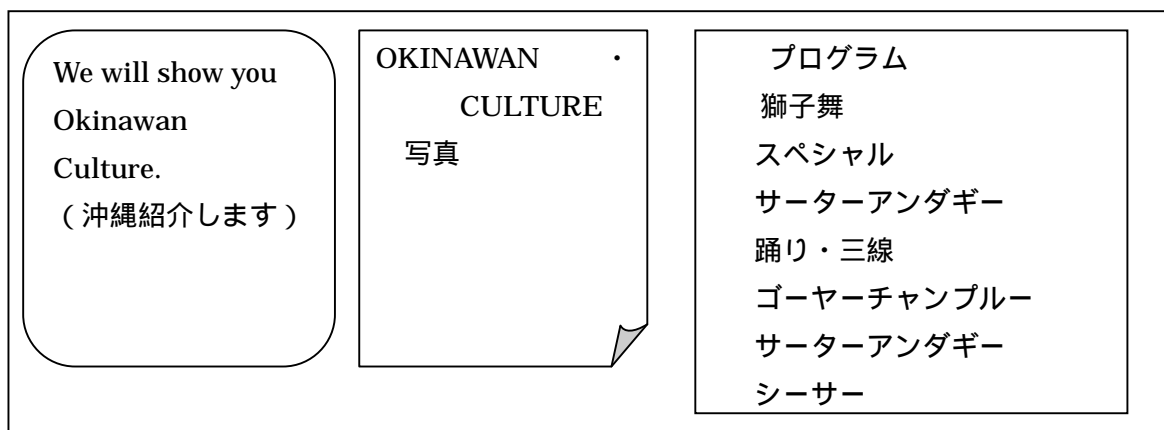
グループごとに、テーマについて発表したり、また他のグループの活動を見ることで、表現力を高めることができたか。

英語でのスキット発表を通し、身近で使える英語表現への関心を高め、発表することへの意欲を高めることができたか。

(5) 場の設定 : Friendly -room2



(6) 板書計画



8 検証授業研究会

(1) 授業者の反省

グループでの協同学習により、教えあい・学び合いを通し、表現する・伝える活動の促進を図った。それによって安心して学習に取り組み、相互理解へもつながったように感じる。

さまざまな表現方法へと展開を図るため、まとめる方法をワークで示し、劇化の手立てとして、ジェスチャータイムで、教師がデモンストレーションをし、発表する際におかした部分を指摘させたり、いい例を実演してもらったりした。それがグループの発表に活かされていた。

基本文の定着を楽しく・無理なく進めるため、子どもたちのなじみの曲を使い、宜野湾市の特産物である「田いも」の天ぷらの作り方をオリジナルソングにし、進めた。それによって、歌を口ずさむと自然と動作が出るほど、楽しく基本文を身につけることができた。

本時、CMを作る際の監督になってもらうという設定で進めることで、しっかりメモをとったり、質問し答えるなど、「見る」「聞く」「発表する(動作・言語表現)」「クイズを考え、答える」など表現活動の基本を体験し、楽しい表現を味わっていた。

毎時間の学習で、学習したことをきちんとふり返しをし、次の活動へつなげることが不十分であった(フィードバックをしっかりとる)。

沖縄の文化を伝えるというタスク活動(課題)を与え、社会見学で学んだ素材からテー

マを選び、それを外国の人に伝えるというコンセプトを進めた。テーマもかなり自由に選択させスタートしたことから、発表までの手立てとなる資料提供に時間がかかった。

グループごとのテーマについて検索する方法やまとめ方など、ワークやPC資料を用意したがもっと適切なものが準備できれば、子どもたちもさらに充実した表現ができたのではないか。

## (2) 意見及び感想 (A: Answer)

トピックのテーマを絞り表現すれば、さらに深みのある表現内容が図れたのではないか。

(A 子どもたちの興味・関心にできるだけ応えたかったので、テーマを6つ程度から選択させた。それによって、テーマについて話し合い、検索・まとめと、発表までの意欲が維持できたように思う。反面、一つのテーマに絞ることで、他のグループとまとめ方・発表の仕方の比較ができたこともあげられる。他の機会にチャレンジしてみたい。)

表現力の高まりをどう評価・発展させるのかははっきりさせる必要がある。(A 事前・事後のアンケート・視聴覚資料・児童の感想からも振り返る)

見えない学力・見える学力の両方が現在問われているが、しっかり自己表現できる児童を育ててほしい。(A 子どもたちの中には、分かっているがどのように考えを表現してよいかわからない、方法はわかるが、みんなの前で表現する勇気もてない子が多い。検索方法・表現の仕方をワークで示したり、教師が気軽に表現したりすることで、楽しく発表できるように工夫した。)

製作した絵本等を他の学年・全体の場で発表するチャンスがあるといい。(A 読み聞かせの時間や学年朝会、英語朝会等の時間を活用し、発表する機会を設けたい。)

文字資料から絵へ、絵から文字表現へと活動の幅を広げる工夫があるといい。(A 感じたことを言葉にする、動作にする等、表現する機会を設ける工夫を日頃から模索し、表現することに慣れるよう計画・実践できるようにしたい。)

<b>Taro Song</b> * clap
Welcome to Okinawa, * * * * *
This is <u>Taro</u> * * * *
It's <u>deep-fried taro</u> , * * * * *
Okinawan <u>snack</u> * * * *
I will show you * * * * *
How to <u>make</u> it, yeah * * * *
T A R O, I love TARO x 4
First, <u>wash the taro</u> and second, <u>peel</u> ,
Third, <u>cut</u> , fourth, <u>deep-fry</u>
Fifth, <u>put the soy sauce and sugar</u>
<u>In the bowl, in the bowl</u> * * * *
<u>Mix it, mix it, mix it well</u>
Finally, <u>put the taro in the bowl</u> * * *
That's all, that's all
<u>It's so easy</u> x 2
<u>Let's do it, let's do it.</u>
<u>You will like it.</u>

図5 Taro Song



### (3) 指導助言（沖縄県立総合教育センター指導主事 上江洲 隆）

英語に対する抵抗感を下げることが言語学習・表現活動の難しいところなので、発表する手立てを示し、発表する上でのルールを毎回チェックしながら、表現することへ慣れさせるようにしたい。

学習ルールを常に意識させることが重要である。Classroom English は学習する上での基礎なので、しっかり守れるよう日頃から随時意識させる。できなかつたら基本に戻るということを毎回の学習で守れるようにしたい。

子どもたちに考える機会・時間を適宜設けること。子どもたちは、学習時間の全てで緊張を維持することは難しい。多様な活動を組み込み、「聞く」・「話す」・「読む」・「考える」・「書く」などの活動をめりはりをつけながら、進める工夫が大切である。

言葉や表現のはばを広げて、語彙を取り込み活用できるよう、学習のふり返り（毎時間フィードバック）を図ること。

表現力を高めるため、他のクラス・他の学習での例を紹介したり、VTR等を視聴させることで、友達もできている、「これなら自分もできる」と自信を持たせる。するとさらに活動への積極性ももてる。教師の適切な資料・言葉かけが表現力を高めるためには大切である。

教師と児童、児童と児童の会話のキャッチボールを常に行い、活動・理解の確認とリズム感ある学習の展開が図れる。常に「どきどき感、ワクワク感」をもって学習をしてもらうために、練り上げられた学習計画の実践を図りたい。

学習の流れの中で、理解の早い子が他を支援し、お互いの関わりをもたせるようにするとよい。そうすることで、一人学びから協同学習へ、お互いの助け合いにより、認め合い、相互理解へと発展するようにしたい。

## 仮説の検証

### 1 具体仮説 の検証

社会科単元である「むかしのくらしとまちづくり」からテーマを選び、調べたことの中から英語でのスキット作りを通し、グループで発表しながら表現力を高めることができるであろう。

#### (1) 児童感想より（S: Student）

- ・前よりできることが増えてきた。(S1)
- ・教えてもらって、本番にはできるようになった。少し英語が好きになった。外国人とも友達になりたい。(S2)
- ・できるようになったことは、声を前より大きく出せるようになった。シーサーチームは英語が超うまかった。ゴーヤチームは絵もうまかったし、声も大きく一番よかったです。(S3)
- ・グループが役割分担をしていることに気がついた。(S4)
- ・たくさんの英語がしゃべれるようになった(S5)
- ・いつもよりか、みんなとてもうまくできていると思いました。あと、とても楽しそうな感じで発表していました。できるようになったことは、少し声を大きくしたことと、みんなに見えるように絵の色をこくぬったことです。(S6)
- ・本番が一番工夫されていて、声の大きさや動きがすごく上手でした。紙しばいやクイズを取り入れていて工夫されていた。(S7)

テーマについていろいろな表現方法でまとめるという選択の幅を持たせたことで、児童も楽しく活動に取り組めたようである。グループの友だちと共同で学習するスタイルも安心して学習に取り組めた要素のようである。学習が進むうち、できることが増え、みんなの前で表現することにだんだん自信がもてるようになった様子が感想からもうかがえる。さらに楽しみながら表現できるようにするためには、表現する機会を随時設けていけるよう、計画・実践したい。

## (2) 児童アンケートより

図7より、Q1.「朝・昼のあいさつが英語で言えますか」という問いに対し、「できる・だいたいできる」と答えた児童

(91.42% 94.27%)や、Q2「曜日・天気を英語で言える」(74.28% 77.13)と、CM発表会に向け、日直が担当することになったことから意識して練習したり、分かるようになりたいと練習した成果が表われている。

Q3「田いも」の天ぷらの作り方を英語で言えますかという問いで、(70.36%

99.97%)学習前と学習後で理解が深まった。3年生で学習した「田いも」の天ぷらの作り方をTPR的(身体表現を入れながら学習する方法)に歌い、踊って覚えることで、発表会本番にはしっかり声に出し、自信をもって唱えることができた。それを、グループの発表に反映させることができた。英語で言えるようになり他の事柄についても英語で言えるようになるとういう関心も高まり、学習の効果がうかがえた。

## (3) 視聴覚資料(VTR・Photo資料)から

スキット作りを通して学習することで、グループごとのテーマの説明のしかたが分かり、またグループで教えあうことで、お互いの考えを表現し合い・伝え合う活動から、友だちとのかかわりが深まり、表情豊かに劇化して表現することができる子が増えた。

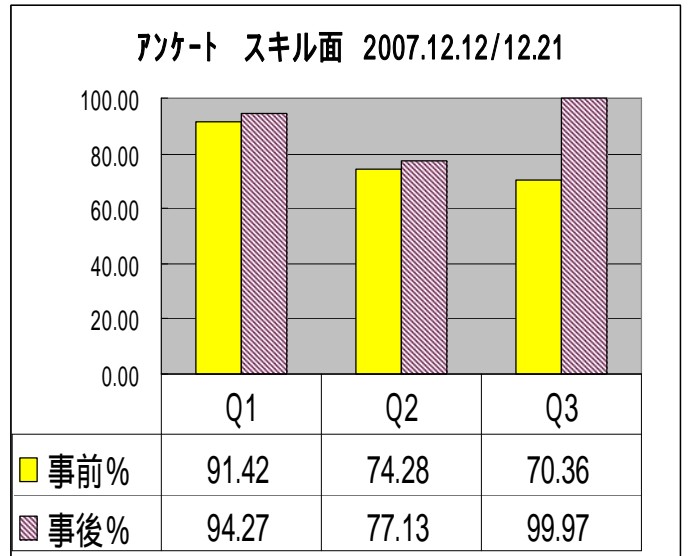


図7 スキル面について





Yさんの変容  
導入  
まとめ方の相談



発表会 楽器を演奏  
したり友だちと踊り,表現  
を楽しんでいた。

## 2 具体仮説 の検証

沖縄の身近な食材の作り方の手順・踊り等を見せたりするスキット活動を通し、身近にある教材を活用しお互いに英語表現活動することにより、発表への関心が高まるであろう。

### (1) 児童感想より

- ・みんなの前に出ることが、こんなに緊張することとは知りませんでした。(S8)
- ・みんなとやって楽しかったです。またがんばりたい。(S9)
- ・ししまいチームはボールを低くしてキャッチするとか、ジャンプしたり工夫をやっていて、毎日練習したんだなと思いました。(S10)
- ・発表をやっていくうち慣れてきた。(S11)
- ・緊張したけどとても勉強になった。(S12)
- ・ぼくは、グループ発表がとても楽しです。3学期もがんばりたい。(S13)
- ・もっとみんなに「カチャーシーやりませんか」と声かけすればよかった。(S14)

感想から活動を通し、少しずつ表現することになれ、次もがんばろうという意欲が現れてきている。

### (2) 児童アンケートより(表4)

図8によるとQ1「英語の学習は楽しいですか」という問いに対し「とてもそうである・そうである」

アンケート 情意面について 2007.12.12/12.21

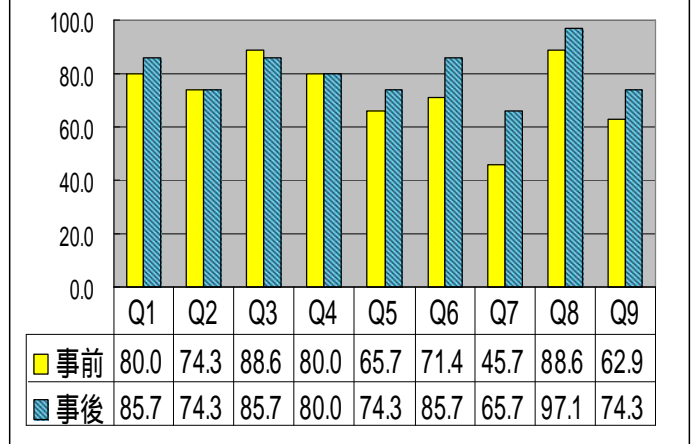


図8 情意面について

表4 情意面について

Q	アンケート 情意面について
Q1	英語の学習は楽しいですか
Q2	外国人に英語で話したことがありますか
Q3	外国の人と友だちになりたいですか
Q4	先生の英語の説明がわかりますか
Q5	社会科で調べたことを英語の時間に使えていますか
Q6	スキット活動をするのはですか
Q7	みんなの前で発表するのは楽しいですか
Q8	友だちと協力して活動できていますか
Q9	学習した英語で、外国の人に話せそうですか

と答えている児童(80.0% 85.7%)や、Q7「みんなの前で発表するのは楽しいですか」では、「はい」(45.7% 65.7%)と20%増えている。

Q9「学習した英語で、外国の人に話せそうですか」で、「とても思う・思う」と答えた子が学習したことを生かし、表現しようと(62.9% 74.3%)と11.4%増加している。

このアンケートより、スキットを通し、英語活動をする中で、表現への関心が高まった。

今後も、学校行事や交流会等で、表現する機会を設け、様々な表現方法で自己表現させ表現への関心が高められるようにしたい。

### (3) 視聴覚資料(VTR・Photo資料)から

みんなの前で発表したり活動することが苦手だった子が友だちと活動し、練習するうち、表現することに慣れてきていた。練習では、メンバーをまとめたり、発表することで表現活動に慣れてきたようで、活動中友だちにアドバイスする場面も見られた。

他の活動には抵抗はないが、発表を苦手としていた児童も、グループの友だちと一緒に自分の役割やタイミング図り、楽しみながら活動している様子が見られた。



発表の場面では友だちをリードし、発表していた。 Yさんの様子

## 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

(1) スキット作りを通し、表現力を高めることができた。

協同の学びを通し、お互いが教えあい・認め合うことで、表現できる素材が増えた(できることが増えた)。楽しく学習ができ、それによって発表が苦手な子も全員が発表・表現を実践することができた。

(2) 郷土の学習をとおして、英語を学習することで、外国の人に伝えたいことが増えた。学習したい・知りたい素材が増え、さらにチャンスがあればいい表現がしたいと考えられるようになった。

(3) 表現するテーマやその手立てを歌(基本文の定着)・検索方法(PC・絵カード・和英辞等)、グループ(異質集団)で投げかけることによって、英語を通し、表現力を高めることができた。

(4) 友だちの表現や他の学級の表現を見ることで、しっかりと聞き、いいところ・アドバイス等を見つけあうことで、自身の表現力も高めることができた。

### 2 今後の課題

(1) 発表の基本(6Rule's)をベースに場に応じた表現方法を身につけ、さらに誰にでも臆すること

なく関わることのできる子どもたちの育成が今後の課題

- (2) 表現力を高めるための学年間・領域間を見据えた指導計画の再検討
- (3) 表現力を高めるための教材・教具等の開発
- (4) 表現を楽しみながら伝えられる教師の英語力・表現力の向上

### 3 おわりに

今回、本研究において、チャンスを下さった宜野湾市教育長普天間朝光先生，温かく迎え，多方面からご指導・ご支援いただいた宜野湾市研究所所長長崎光義先生，田場勝指導主事，他研究所職員の皆様ありがとうございました。さらに厳しい教育現場事情に関わらず，研究へ送り出していただいた志真志小学校校長大城盛安先生，小学校英語について，様々な方面からアドバイスいただいた同校教頭屋良和正先生，TT学習においてお骨折りいただいた西平和香子先生，検証授業に協力して下さった比嘉みわ先生と4年2組のみなさん，一緒に楽しく学習することができ，感謝申し上げます。ありがとうございました。

そして，ともに研修に励み，ともに高めあった玉那覇秀樹先生，渡久山みゆき先生，西川賢先生，皆さんの笑顔にいつも支えられていました。ありがとうございました。

これまで関わってきた英語教育・英語学習に，新たな気持ちで取り組むことができ，これまでの疑問・課題を整理するチャンスを得，有意義な研修となりました。日頃見逃していた児童の興味・関心・能力・可能性に気づくことができたことも，貴重な時間となりました。

小学校英語は先行研究であり，指導計画・指導の手立て・評価方法等どれも，資料検索から手探りで進めていかななくてはいけない分野で，テーマについてイメージしていたことを形にすることに難しさを感じました。入所当初，校内研修と絡めながら進めていく予定でしたが，これまでの知識がいまいちなものであり，一つ一つを確かめながら進める必要性を感じました。この半年の研修は，ハードルを一つ一つ越えるように整理することができ，有意義な時間となりました。

そして教師の豊かな表現力・観察力がいかに大切であるかを痛感し，今後の大きな課題を見つけることができました。

ふり返ってみると，やっと小学校の英語教育のスタートラインに立てたような気がしています。テーマ設定から，研究内容の選定，計画案の検討・検証授業の実施まで，懇切丁寧にご指導いただいた県総合教育センター指導主事の上江洲隆先生，ありがとうございました。

自身の力不足から，まだまだ多くの課題が残されています。今後も動き出した歩みを止めることなく，子どもたちと取り組んでいきたいと考えています。本研究ももうすぐ終焉をむかえますが，楽しい英語の学習が展開できるよう，今後も研究に邁進していきます。本当にありがとうございました。

### 主な参考文献

- ・岡 秀夫 『小学校英語教育の進め方』 - 「ことばの教育」として - 株式会社成美堂 2007年
- ・金森 強 『小学校の英語教育』 指導者に求められる理論と実践 教育出版 2003年
- ・高浦 勝義 『絶対評価とルーブリックの理論と実践』 黎明書房 2004年
- ・東野 裕子 『小学校における プロジェクト型英語活動の実践と評価』 株式会社高陵社書店 2007年
- ・米山 朝二他 改訂版『英語科教育実習ハンドブック』 大修館書店 2000年